

## 受験奮闘記 (抜粋) 1年生保護者 西口様

皆さま、こんにちは。学院より依頼があり、少しでも皆様のお役に立てればということで登壇をお引き受けいたしました。

ちょうど1年前、私も皆様と同じように、受験までのひと月半前は焦りや不安でいっぱいでした。娘は泣きながら勉強するのがお決まりで、恥ずかしい話ですが、「泣くのなら受験をやめればいい！」と大きな声になってしまう私でした。私が「ごめんね・・・。」と言うと、娘は「いいよ、私ができないのが悪いから・・・。」と。そして抱き合い仲直りするの繰り返し。夜、寝顔を見ながら、こんな小さい子に無理をさせていないかと悩み、泣いたこともありました。それに反し、主人は、「何とかなる！」と平気を装っていました。受験に対する主人との温度差を感じることもありました。

思いつめた私は、家族会議を開き、とことん話し合いました。娘と主人から本音を聞くことができ、結果は「国府台女子学院に合格すること」でした。それからのひと月半は、同じ目標に向かって家族がひとつになれた時でした。

ご縁があり、入学が決まった時は、娘、私、主人の三人で心から喜び合いました。今年4月、入学してすぐ娘に「お母さん、国府台女子学院に入れてよかった。受験勉強を頑張ってたよ！」と言われました。とても驚きました。日々の成長を感じ、心からご縁に感謝しております。最近他校を受験した友人達に会い、話をする機会がありました。皆、「入学してみないと分からない。失敗した。」とびっくりするような言葉の数々。私の心の中は「入学できてよかった。」という思いでいっぱいでした。

それでは、我が家で受験までの日々をどのように過ごしてきたかをもう少しお話させていただきます。

娘は、学院に進学された幼稚園の先輩のお姉さん達への「憧れ」が強く、年少の終わりに、突然「受験をしたい。」と言い出しました。一番大変だったことは、習い事でした。たくさん習い事をしていたので、受験勉強との両立にまず苦しみました。親の心配に反し、娘自身は何事もなくこなしており、大変とっていなかったようでした。私は受験はまず健康第一でなければならないと考えており、睡眠時間を確保するために習い事を減らすことを娘に勧めました。娘はどうしても習い事は全部続けたいと聞かず、結果、最後までやり遂げました。今となってみれば、諦めずにやり遂げたことは受験にプラスになったと思っております。

娘のタイムスケジュールですが、朝は5時起床、5時半から8時の幼稚園登園時刻までの2時間半は、受験勉強、夜は一切やらず、8時就寝を基本に、週末の土曜日は私と受験に結びつくような「体験の日」とし、日曜日は父親との日にし、夫婦分担で娘に向き合うようにしました。日曜日の半日は父親との受験勉強、残り半日は、めいっぱい遊ぶ時間と決め、自然体験や動物とのふれあいを大事にしてきました。受験勉強期間で身につけた早寝早起きは、今の学院通学においても大変役に立ち今も変わらず5時起床で、規則正しい習慣が身につきました。

入試までわずかとなったこの時期は、仕上げの時期ですので、私はこの時期あえて「娘の心の安定」に重点を置き、親子ともに心に余裕を持つことを決めて取り組みました。毎

日の読書、特に読み聞かせの時間は、ペーパー試験でいうと、「お話の内容理解」につながります。我が家では、読み終わった後に、登場人物や行動、情景等をクイズ形式にして質問し、楽しんでいました。

また、映画館、美術館、博物館、コンサートに出かけ、「本物」を体験させました。出かける際は、できるだけ公共交通機関を利用し、公共でのマナーやルールを学ばせました。そして、心が少しでも豊かになるように、ボランティア活動などでお友達とのかかわり方や人への思いやりを学ばせ、受験でいう「行動観察」のテストにつなげるようにしました。「手先の巧緻性」においては、お手伝いの中で洗濯物をたたむことや食事の配膳などで対策をしました。学院の試験で言いますと、「風呂敷包み」につながります。ただやみくもにペーパー問題をやらせるよりは、普段の生活と結びつけて体験を多くさせることの方が、ペーパー試験の力がつくと感じました。何かができる喜びは、自信につながりますし、親子で一緒に楽しむことで受験へのストレスを軽減させました。

今月22日、23日の学院祭では、育友会のお父様方が受験生向けにいろいろと催し物をしてくださいます。昨年、私も娘とともに参加しました。娘は、小学部だけでなく、中学部や高等部のお姉さん方にも会い、学院祭の素晴らしさに感動していました。やはり、「憧れ」は受験の頑張りにもつながりますし、受験直前のラストスパートにもなります。学院祭参加も体験の一つです。ぜひ参加されることをお勧めします。

最後になりますが、受験は親と子供の絆を深めるのはもちろん、親が子供の受験を意識することで、花や虫の生態、自然や季節への興味関心が親自身にも芽生えてくるものだと実感しました。受験を経験しなかったら、おそらくそういうことに目を向けることもなく、我が子をより知る機会もなかったと思います。娘のエピソードですが、面接の練習では「将来の夢」について答えてくれなかったのですが、本番では、娘の夢や本当の気持ちを知ることができ、驚きや発見がありました。

これからの日々は、親子共々ストレスを感じやすい時期だと思います。どうか、親子のコミュニケーションをとることを忘れずに、健康に気を付けていただき、二度とない「小学受験」を楽しむ気持ちで有意義な時間をお過ごしください。

最後に一つお勧めしたいことがあります。受験前日、お嬢様にお手紙を書いて当日の朝渡してあげると良いと思います。私は「今まで沢山頑張ったね。今日は笑顔でいってらっしゃい。」と書きました。娘はとても喜んでくれ、にこにこ顔で試験に臨みました。

合格通知をいただいた後、娘から手紙をもらいました。「今まで沢山勉強を教えてくれてありがとう。国府台女子学院で頑張ります！」という内容でした。この二つの手紙は家族の宝物です。

受験期間を振り返り、「受験」という親子の思い出を述べさせていただきました。皆様のご健闘を心よりお祈り申し上げます。

